

科目名	図書館概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

人間生活学部学位授与方針2, 3に該当する。

本科目は図書館司書資格取得のための課程において入門的な役割を果たし、図書館の意義や役割をはじめ、歴史、利用者、司書、類縁機関等、館種別図書館の幅広い基礎知識を確実にするための科目として位置づけられる。よって、初年次(1年生)に履修することを薦める。

#### 科目の概要

現代社会の中で図書館は、どのような意義があり、どのような役割や機能を有するのか。そして、図書館司書には、どのような可能性があるのか。本科目では、図書館の役割や機能、図書館司書の仕事等について考え、「図書館を考える行なう」を目標に受講生とともに図書館をデザインする。

#### 学修目標(=到達目標)

授業時の講義内容の理解とともに、場合によって受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館の基本的機能と役割、館種等、図書館という仕組み(システム)を理解する。
- ・図書館が置かれている社会的背景(歴史、制度、機能、メディア、情報化)を理解する。
- ・図書館司書の具体的な仕事内容とその役割を理解する。
- ・「図書館の未来像」について自分なりの考えをまとめることができる。

#### 内容

本科目は講義とともに、学生同士のミニグループワークや教員との双方向の質問などを取り入れ、学びを深める。

1	オリエンテーション：本科目の進め方、図書館司書課程全体の授業構成
2	図書館の理念・社会的意義：図書館の構成要素と機能
3	図書館の種類と相互協力：類縁機関を含む
4	近年の先導的な図書館活動の事例：図書館の機能・役割を考える
5	図書館の自由
6	図書館司書の仕事(1)：司書の役割・業務モデル、専門性、資格・関係団体
7	図書館司書の仕事(2)：図書館サービスの種類・利用者のニーズ
8	情報リテラシー教育：「図書館」をどのようにツタエルか？
9	学校図書館の可能性
10	大学図書館の機能と役割
11	公共図書館の機能と役割(1)：図書館法規・行政・政策、地域社会と図書館
12	公立図書館の機能と役割(2)：選書論、図書館員の専門性
13	図書館の歴史：欧米の公立図書館、国内大学図書館も含む
14	図書館の未来をデザインする：図書館の課題と展望を考える
15	まとめ

## 評価

授業中・後の課題作成（40％）、授業への参画・発表（10％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、コメントペーパーを配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

## 授業外学習

【事前準備】教科書の該当箇所を事前に通読すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら、配布資料（プリント）の確認、ワークシート課題に取り組むこと。「図書館とは何か」について、自分の言葉で、自分自身の意見や考え方を整理すること。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】塩見昇『図書館概論』五訂版，日本図書館協会，2018（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，1）

【推薦書】下記以外の推薦書は，授業中に紹介する。

- ・日本図書館協会『市民の図書館』増補版，日本図書館協会，1976
- ・前川恒雄，石井敦『新版図書館の発見』日本放送出版協会，2006（NHKブックス，1050）
- ・竹内愼『図書館のめざすもの』新版，日本図書館協会，2014

科目名	図書館制度・経営論		
担当教員名	秋本 敏		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

2012年4月から文部科学省令による「大学において履修すべき図書館に関する科目」が新たに施行され、それまでの「図書館経営論」(1単位)に対し、法制度、自治体行政の制度・政策等が付加され、新たに2単位科目として生まれ変わったものである。

##### 科目の概要

図書館に関する法規、関連する領域の法律、図書館政策、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、経営評価、管理形態等について解説する。また、図書館の現状、問題点を紹介し、学生には、その解決策を考えて発表やレポートを提出させることもある。

##### 学修目標(=到達目標)

図書館に関する主要な法規や政策を説明でき、図書館経営の基本的な手法と経営資源を理解できること。

#### 内容

この授業は、講義を基本とし、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	図書館制度・経営論とは
2	図書館関連法規の概要
3	図書館法
4	他館種の図書館に関する法規
5	図書館サービス・経営に関する法規
6	図書館政策
7	公共経営としての図書館経営
8	図書館の組織と職員
9	図書館の財政と予算
10	図書館における計画
11	図書館の経営評価
12	図書館計画をめぐるグループワーク
13	図書館計画をめぐるグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション
14	図書館の管理運営の動向
15	まとめ

#### 評価

授業への参加度20%、毎回のリアクションペーパー20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

毎回講義の最初に前回講義のリアクションペーパーに記載された疑問や意見に返答し、学習理解を深められるようにする。

## 授業外学習

【事前予習】文部科学省ホームページ「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」『これからの図書館像～地域を支える情報拠点をめざして～(報告)』また図書館法を確認し、内容を整理しておく。

【事後学修】授業については復習は必ず行い、授業時に紹介したWeb情報、図書、報告等は目を通して講義の理解を深めるようノートの作成をしておく。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】糸賀雅児・葉袋秀樹, 『図書館制度・経営論』, 樹村房

【推薦書】内野安彦, 『図書館長論の試み』, 樹村房

片山善博・糸賀雅児, 『地方自治と図書館』, 勁草書房

【参考図書】 授業で適宜紹介する。

科目名	図書館情報技術論		
担当教員名	石川 敬史、加藤 亮介、近藤 秀二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：人間生活学部学位授与方針2,3に該当する。多くの図書館では、利用者への確に情報を提供するために、資料の登録やデータ管理をはじめ、OPACシステムを伴う図書館システムを導入している。さらに、貴重書の保存・整理・公開を目的に、資料をデジタル化し、公開している図書館もある。このように、近年の図書館業務には、図書館システムや情報技術の知識が欠かせない。本科目では、図書館業務を通じた情報技術を修得するにあたり、まずその前提となる現在のICT(Information and Communication Technology)を総合的に学び、図書館情報システム等の設計仕様を考え、図書館サービスをデザインする。

科目の概要：本科目では、図書館業務で必要とされる基礎的な情報技術について、具体的事例を交えながら修得する。さらに、図書館システムや図書館ホームページの仕組みを通して、コンピュータシステム・ネットワーク(セキュリティ含)をはじめとした情報技術を取り上げる。そして、これらの情報技術を活用した情報システムの仕様書を取りまとめ、未来の図書館情報技術を考察する。

学修目標(=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに、場合によっては、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館システムの仕組みを通して、図書館情報技術の基礎を理解すること。
- ・図書館ホームページやインターネット検索、電子資料の管理を理解すること。
- ・図書館システムの意義を理解し、情報技術を踏まえ仕様書を作成できること。

#### 内容

本科目は講義とともに、学生同士のミニグループワークや教員との双方向の質問などを取り入れ、学びを深める。

1	オリエンテーション：図書館における情報機器とは？(石川)
2	図書館システムの最前線：特徴，歴史，種類(石川)
3	図書館システムの仕組み・活用(石川)
4	ICTの今：プラットフォーム, AI , IoTを論点として(加藤)
5	ICTとマーケティング：プラットフォームビジネスとアドテク(加藤)
6	ICTとクリエイティブ：出版とインタラクティブデザイン(加藤)
7	前半総括(加藤)
8	情報セキュリティとコンピューターネットワーク(近藤)
9	コンピュータシステムの管理(近藤)
10	データベースの構造と仕組み(近藤)
11	図書館OPACシステム(近藤)
12	電子資料(データベース, 電子ジャーナル, 電子書籍)の流通・管理・方法(近藤)
13	インターネット検索の基礎：検索エンジンの仕組みを含む)(近藤)
14	情報技術の活用と図書館サービス(近藤)
15	まとめ(近藤)

## 評価

授業中・後の課題（30％）、授業への参画・発表（20％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、コメントペーパーを配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

## 授業外学習

【事前準備】図書館所蔵資料，推薦書，Webの情報などから該当箇所に関する用語の意味を整理すること。『図書館情報学用語辞典』などを使用すると良い。（各授業に対して60分）

【事後学修】推薦書とともに，配布したプリント（ワークシート等）を確認し，図書館における情報技術の活用について，自分の言葉でまとめ，自分自身の意見を整理すること。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

【推薦書】下記以外は，授業中に提示する。

- ・時実象一ほか『情報検索の知識と技術 応用編：検索技術者検定2級対応テキスト』情報科学技術協会，2015.
- ・吉井隆明ほか『情報検索の知識と技術 基礎編：検索技術者検定3級対応テキスト』情報科学技術協会，2015

科目名	図書館サービス概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：人間生活学部学位授与方針2,3に該当する。情報技術の進展により図書館が提供するサービスにも質・量ともに変化が伴う中で、図書館は利用者のニーズに応じて、さまざまなサービスが行われている。本科目では、図書館サービスの構造、意義等の概説と特徴的な図書館サービスの事例を紹介し、将来求められる図書館サービスのあるべき姿を考える。

科目の概要：社会や利用者はどのような図書館サービスを求めているのか。他方で、図書館は社会の変化に伴い、どのようなサービスを提供しているのか。本科目では、図書館サービスの構造や意義・図書館サービスの事例を解説する。また、社会の変化に伴い、図書館サービスがどのように変化し、利用者のニーズに応じてきたのかを歴史的に考察する。

学修目標(=到達目標)：授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえ、自らの意見や考えをまとめること。

- ・図書館が提供しているさまざまなサービスを理解し、意義と方法を説明することができる。
- ・館種による図書館サービスの特徴や違い、利用者の要望を理解し、望ましい図書館サービスを説明できる。
- ・近年の図書館サービスの課題を踏まえ、将来図書館に求められるサービスについて、自分の考えをまとめることができる。

#### 内容

本科目は講義とともに、学生同士のミニグループワークや教員との双方向の質問などを取り入れ、学びを深める。

1	オリエンテーション：図書館サービスとは何か？
2	図書館サービスの意義・種類(1)：利用者・館種別サービスの特徴
3	図書館サービスの意義・種類(2)：先導的な図書館サービス
4	図書館サービスとマネジメント：図書館サービスの設計
5	図書館利用者調査：事例と設計
6	図書館サービスの変遷・歴史
7	資料提供・閲覧サービス
8	貸出・返却の方法
9	読書案内・ブックリストの作成
10	利用対象に応じたサービス(1)：利用者の発見、サービスの構築
11	利用対象に応じたサービス(2)：高齢者、障がい者、多文化サービス等
12	図書館の経営とサービス：業務委託・指定管理者制度
13	図書館の利用空間の創造：利用者へのコミュニケーション、広報活動
14	図書館サービスの未来を考える
15	まとめ

#### 評価

授業中・後の課題（40％）、授業への参画・発表（10％）、試験（50％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回、コメントペーパーを配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

#### 授業外学習

【事前準備】「図書館概論」科目の教科書『図書館概論』（日本図書館協会）を用いて館種ごとのサービスを考える。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら、配布資料（プリント）の確認、ワークシート課題に取り組むこと。自分自身の意見や考え方を整理すること。（各授業に対して60分）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は特に指定しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・前川恒雄『貸出』日本図書館協会，1982(図書館員選書,1)
- ・渡部幹雄『図書館を遊ぶ』新評論，2003
- ・花井裕一郎『はなぼん：わくわく演出マネジメント』文屋，2013
- ・小林卓，野口武悟『図書館サービスの可能性』日外アソシエーツ，2012
- ・佐藤聖一『1からわかる図書館の障害者サービス：誰もが使える図書館を目指して』学文社，2015



科目名	情報サービス論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

図書館に関する科目の1つ。図書館における情報サービスの意義と種類、その中心であるレファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について解説する。さらに、それらを踏まえて、発信型情報サービスと図書館利用教育について解説する。図書館利用者への情報サービスには、どのようなものがあるのか、を意識して学修することが望まれる。図書館における情報サービスに関する基本的知識を修得することを目標とする。具体的には、情報サービスの意義と種類、レファレンスサービスと情報検索サービスの方法、各種情報源の種類について理解し、それらを踏まえて、発信型情報サービスなどの新しい動向を理解することができるようになる。

#### 内容

この授業は講義を基本とする。それと共に、提出されたレポートで書かれた質問に回答し、各人がパソコンで資料を閲覧することも取り入れながら、学びを深めていく。

1	情報社会と図書館の情報サービス
2	情報サービスの意義と種類 (1) レファレンスサービスとレフェラルサービス
3	情報サービスの意義と種類 (2) カレントアウェアネスサービス
4	レファレンスサービスの理論 (1) 利用者の情報行動とレファレンスプロセス
5	レファレンスサービスの理論 (2) レファレンスサービスの組織・担当者とその評価
6	レファレンスサービスの実際
7	情報検索サービスの理論と方法
8	各種情報源の特質と利用法
9	各種情報源の種類と評価 (1) 参考図書
10	各種情報源の種類と評価 (2) データベース
11	各種情報源の種類と評価 (3) ネットワーク情報資源
12	各種情報源の組織化
13	発信型情報サービスの意義と方法
14	情報リテラシーの育成と図書館利用教育
15	まとめ

#### 評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と授業への参加度(10%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】数回提出をを求める授業内容をまとめたレポートは、次の授業でコメントを記載して返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】毎回、次回の授業内容を予告するので、教科書の該当する部分を読み、ノートにメモを記入しておくこと(各授業に対して60分)。

【事後学修】毎回、授業で説明を受けた部分を、教科書と予習で作成していたメモと講義ノートを照らし合わせ、復習ノー

トを作成すること。（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】三澤勝己『江戸の書院と現代の図書館』、樹村房

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	児童サービス論		
担当教員名	神原 和子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格

司書課程の必修科目

科目の概要

公共図書館における児童サービスの基本的な考え方とその実際を学ぶ。子どものための資料について学ぶ。子どもと本を結びつける技術の紹介と実践。

学修目標 ( = 到達目標 )

基本的な児童書の読了。子どもの読書の重要性と特徴の理解。子どもと本を結びつける技術の習得。地域における公共図書館の児童サービスのあり方を学ぶ。

内容

この授業は、講師作成のレジュメによる講義を中心に、グループ討議、読み聞かせ等の実習を行う。

公共図書館の児童サービスに必要な知識や実技を深めていく。

1	講義ガイダンス 公共図書館の児童サービスとは ( 児童図書館の歴史 )
2	児童資料の種類と特性、選書、蔵書構成等
3	子どもと読書 子どもの発達段階と読書能力・興味
4	児童資料1 絵本
5	児童資料2 児童文学 ( 幼年文学と児童文学 )
6	児童資料3 口承文学 ( 昔話・神話・伝説 )
7	児童資料4 知識の本、その他の資料
8	児童サービスの実際1 運営・企画 ( 施設・設備を含む )
9	児童サービスの実際2 サービスデスクワーク、フローワーク、レファレンスワーク等
10	児童サービスの実際3 子どもと本を結びつけるさまざまな催し
11	児童サービスの広がり 乳幼児サービス、ヤングアダルトサービス等
12	図書館利用に障がいのある子どもたちへのサービス、学校等関連諸機関との連携・協力
13	学生による実演1 読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング、紙芝居等
14	学生による実演2 読み聞かせ、ブックトーク、ストーリーテリング、紙芝居等
15	まとめ 児童図書館員の専門性

評価

授業への参加度10%、4回のレポート提出70%、実演20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】4回のレポートのうち、1～3回目までのレポートは、コメントをつけて翌週以降の授業内で返却する。

#### 授業外学習

【事前準備】公共図書館児童サービスについて、各授業のテーマに基づき予習する。（各授業45分）

【事後学習】授業で学んだ内容を復習、紹介した本（基本的な児童書）を読む。（各授業60分）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。プリントを配布する。

【推薦書】・『児童図書館サービス論』赤星隆子、荒井督子編著 理想社 ・『今、この本を子ども手に』東京子ども図書館編 東京子ども図書館 ・『幼い子の文学』瀬田貞二著 中央公論社 ・『絵本論』瀬田貞二著 福音館書店 ・『子どもと本』松岡享子著 岩波書店 ・『がんばれ！児童図書館員』杉山きく子著 本作り空Sola ・『よみきかせの基本』東京子ども図書館編 東京子ども図書館

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

図書館に関する科目の1つ。「情報サービス論」の学修をふまえ、その内容を具体的・実践的に展開する科目。参考図書の種類・レファレンスインタビューの技法・レファレンスプロセスに関する知識を修得する。さらに、図書館利用者からの分野毎の質問に対して、回答のプロセスや使用する参考図書をはじめとする情報源に関する知識を修得する。そのために、冊子体情報源による調査・発表を加えた演習形式により進める。情報サービスの重要性の理解、レファレンスインタビューの技法を体得し、能力の向上を図ること、質問の受付から回答・事後処理に至るプロセスの理解、回答のための各種参考図書の特性と利用方法の理解、がそれぞれできるようになる。

#### 内容

この授業は、課題への回答を提出してもらうと共に、授業でその調査内容を発表してもらう演習形式により進める。受講生相互による質疑応答を行いながら、学びを深めていく。

1	情報サービスの概要と意義
2	情報サービスの設計
3	レファレンスコレクションの活用と整備
4	レファレンスインタビューの技法
5	レファレンスインタビューの実際
6	質問に対する検索と回答 ( 図書・雑誌に関する情報を探す )
7	質問に対する検索と回答 ( 言語に関する情報を探す )
8	質問に対する検索と回答 ( 人物・団体に関する情報を探す )
9	質問に対する検索と回答 ( 地理・地名に関する情報を探す )
10	質問に対する検索と回答 ( 歴史に関する情報を探す )
11	質問に対する検索と回答 ( 事物・事象に関する情報を探す )
12	レファレンス事例の収集
13	レファレンス事例の分析
14	情報サービスの評価
15	まとめ

#### 評価

授業における課題(50%)と最終課題(30%)と授業への参加(20%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出を求める課題への回答は、次の授業でコメントを記載して返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】出された課題について調査を行い、調査用紙にその結果を記入する ( 各授業に対して60分 )。

【事後学修】毎回、授業で取り上げた問題について、理解した内容をノートにまとめる ( 各授業に対して60分 )。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 斎藤泰則・大谷康晴『情報サービス演習』、J L A 図書館情報学テキストシリーズ 7、日本図書館協会

【参考図書】 教室で紹介する。

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	中西 裕		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

科目の性格：図書館の利用者が独力ですべての情報や資料を得て疑問を解決できるとは限らない。その際に図書館が手助けをするのが情報サービス(レファレンスサービス)である。本科目では、「情報サービス論」の学修を基礎として、図書館に蓄積された資料を使っての実践的な演習を行う。

科目の概要：演習形式を中心とした授業を行う。情報サービス(レファレンスサービス)において必要とされるレファレンスブックの知識、インタビュー技法を踏まえ、レファレンス質問への回答訓練を行う。授業で得た知識を基に、発信型情報サービスの実際のあり方についても学ぶ。

学修目標(=到達目標)：

- ・レファレンスサービスの技法を修得する(図書館で授業を行う場合もある。)
- ・レファレンスサービスに必要なレファレンスブック(参考図書)について、それぞれの特性と利用法を修得する。
- ・ワークショップを行うことにより、レファレンスの回答方法(技法)や複数のレファレンスブックの評価を整理することができる。
- ・発信型の情報サービスを設計することができる。

内容

1~5回の授業では概説を行う。「情報サービス論」の授業を振り返り、その教科書および配布資料を事前に通読し、疑問点は質問をして不明の点は授業内で解決できるように学習する。6回~11回の授業では、参考図書についての解説を行ったのちに、図書館で実際にそれらの参考図書を手に取りながら、各自に与えられた課題を解く。12回・13回の授業では、提出課題の答え合わせを行う。14・15回の授業では発信型情報サービスについての概説を行う。

1	オリエンテーション、情報サービスの内容
2	情報サービスの設計
3	レファレンスインタビューの技法
4	レファレンスインタビューの実際、レファレンスコレクションの整備
5	レファレンスブックの種類と特性
6	レファレンス質問の種類と回答(1) 書誌情報
7	レファレンス質問の種類と回答(2) 言語辞書・百科事典
8	レファレンス質問の種類と回答(3) 人物・団体
9	レファレンス質問の種類と回答(4) 地理・地名
10	レファレンス質問の種類と回答(5) 歴史
11	レファレンス質問の種類と回答(6) 統計・総合索引
12	質問回答の分析(1)
13	質問回答の分析(2)
14	発信型情報サービスの設計
15	まとめ

## 評価

授業中・授業後の課題（70%）、授業への参画・発表の姿勢（10%）、最終課題（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。授業外の課題の提出を重視する。

【フィードバック】演習による授業であるので、課題設定をし回答を共有する。

## 授業外学習

【事前準備】配布資料の該当部分を事前に通読し、疑問点などをA4判1枚にまとめること（60分）。

【事後学修】配布されたプリントに基づき、授業で取り上げた参考図書類を図書館で手に取り、課題を解いてみること（60分）。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、プリントを配布する。

### 【推薦書】

- ・長澤雅男，石黒祐子『レファレンスブックス：選びかた・使いかた』三訂版，日本図書館協会，2016
- ・その他 授業で紹介します。



科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

人間生活学部学位授与方針2,3に該当する。あらゆる人々の活動において多様な問題があり、その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においてもデジタル情報の増加に伴い、データベースから必要な情報を提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では「情報サービス論」を踏まえ、情報検索の基礎知識や、利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

#### 科目の概要

図書館サービス(特にレファレンスサービス)において必要とされる情報検索技術を習得するために、演習形式で情報検索を行なう。本科目では、情報検索の基礎や、各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では、図書・雑誌・新聞記事データベース、電子ジャーナルをはじめ、インターネット上の情報源を取り上げる。また、こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため、毎回演習問題を行なう。

学修目標(=到達目標): 本科目は演習形式で行なうため、図書館における情報検索の理解とともに、実践的なスキルを身につけること。図書館の蔵書検索、雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索技術を獲得する。(レファレンスサービスのシミュレーション演習も行う。) データベースの特徴や長短を理解し、必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる。

#### 内容

本科目は演習科目のため、講義形式ではなく、授業時の演習問題への取り組み、発表、回答内容の共有、授業後の課題の共有など、双方向形式で進めていく。

1	オリエンテーション: 図書館における情報検索・レファレンスサービスとは?
2	情報検索の概念, 図書の検索 (OPAC検索)
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略, 検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事, 論文入手までのプロセス (総合演習)
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書・雑誌記事・論文の検索
10	新聞の所蔵検索, 新聞記事の検索
11	さまざまな情報源(1): 人物, 企業, 団体情報等の検索
12	さまざまな情報源(2): 法律, 統計, 科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作(1): 図書館の事例, リンク集の事例
14	パスファインダーの制作(2): 発表
15	まとめ

## 評価

授業中・授業後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とし，総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】本科目は演習のため，毎回の課題を返却します。

## 授業外学習

【事前準備】教科書の該当部分を事前に通読すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書や配布されたプリントに基づき，授業で取り上げたWebサイトに実際にアクセスして検索すること。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】齋藤泰則，大谷康晴『情報サービス演習』日本図書館協会，2015（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，7）

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

・毛利和弘『文献調査法』第7版，日本図書館協会，2016

・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）

科目名	情報サービス演習		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

人間生活学部学位授与方針2,3に該当する。あらゆる人々の活動において多様な問題があり、その解決のためには的確な情報を収集し評価する必要がある。図書館においてもデジタル情報の増加に伴い、データベースから必要な情報を提供する情報検索サービスの機会が増えている。本科目では「情報サービス論」を踏まえ、情報検索の基礎知識や、利用者が必要とする情報を的確に提供するための検索スキルと情報活用能力を演習形式で修得する。

#### 科目の概要

図書館サービス(特にレファレンスサービス)において必要とされる情報検索技術を習得するために、演習形式で情報検索を行なう。本科目では、情報検索の基礎や、各図書館作成の情報源ガイドを踏まえたうえで演習を行なう。演習では、図書・雑誌・新聞記事データベース、電子ジャーナルをはじめ、インターネット上の情報源を取り上げる。また、こうした情報の総合的な理解と実践力を習得するため、毎回演習問題を行なう。

学修目標(=到達目標): 本科目は演習形式で行なうため、図書館における情報検索の理解とともに、実践的なスキルを身につけること。図書館の蔵書検索、雑誌記事・新聞記事の検索をはじめ多様なデジタル情報から必要な情報を検索技術を獲得する。(レファレンスサービスのシミュレーション演習も行う。) データベースの特徴や長短を理解し、必要な情報を的確に検索し利用者へ提供できる。

#### 内容

本科目は演習科目のため、講義形式ではなく、授業時の演習問題への取り組み、発表、回答内容の共有、授業後の課題の共有など、双方向形式で進めていく。

1	オリエンテーション: 図書館における情報検索・レファレンスサービスとは?
2	情報検索の概念, 図書の検索 (OPAC検索)
3	書誌ユーティリティー・総合目録の検索
4	情報検索の基礎・検索戦略, 検索語の性質・選択
5	雑誌タイトルの検索と所蔵検索
6	雑誌記事・論文の検索
7	雑誌記事, 論文入手までのプロセス (総合演習)
8	電子ジャーナルの検索
9	海外の図書・雑誌記事・論文の検索
10	新聞の所蔵検索, 新聞記事の検索
11	さまざまな情報源(1): 人物, 企業, 団体情報等の検索
12	さまざまな情報源(2): 法律, 統計, 科学技術情報等の検索
13	パスファインダーの制作(1): 図書館の事例, リンク集の事例
14	パスファインダーの制作(2): 発表
15	まとめ

## 評価

授業中・授業後の課題（50％），授業への参画・発表の姿勢（10％），試験（40％）とし，総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】本科目は演習のため，毎回の課題を返却します。

## 授業外学習

【事前準備】教科書の該当部分を事前に通読すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】教科書や配布されたプリントに基づき，授業で取り上げたWebサイトに実際にアクセスして検索すること。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】齋藤泰則，大谷康晴『情報サービス演習』日本図書館協会，2015（JLA図書館情報学テキストシリーズ ，7）

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

・毛利和弘『文献調査法』第7版，日本図書館協会，2016

・藤田節子『キーワード検索がわかる』筑摩書房，2007（ちくま新書，685）

科目名	図書館情報資源概論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

人間生活学部学位授与方針2,3に該当する。

図書館にはさまざまな資料が選択・収集・整理・保存(管理)され、各館独自のコレクションが形成され、利用者に情報が提供されている。本科目では、図書館コレクションを形成している図書館情報資源の種類、特質、流通等を広く概説し、図書館が情報資源を選択・収集・整理・保存(管理)する意義を考察し、利用者への提供方法をデザインする。

#### 科目の概要

図書館には、どのような資料が収集され、どのような観点でコレクションが形成されているのか。そのためにも、図書館情報資源の特質を知り、図書館の館種や利用者のニーズも踏まえる必要がある。本科目では、図書館業務に必要な図書館情報資源の種類と特質、電子資料やネットワーク情報資源の動向を概説する。そして、コレクション形成を具体的に考え、利用者へ提供する方法をデザインする。

#### 学修目標(=到達目標)

授業時の講義内容の理解とともに、受講者同士の議論やミニワークショップを行ない、他の受講生の意見や考えを踏まえながら、自らの意見や考えをまとめること。図書館資料の種類や特徴、電子資料やネットワーク情報資源の長短を理解する。これらを踏まえ、図書館のコレクション構築をまとめることができる。学問分野別(人文・科学技術等)に調査方法の違いを発見し、情報資源の特性を理解する。

#### 内容

本科目は講義とともに、学生同士のミニグループワークや教員との双方向の質問などを取り入れ、学びを深める。

1	オリエンテーション:「図書館資料」から「図書館情報資源」へ
2	図書館資料の種類を考える:「図書館資料」の意義
3	図書館資料の種類と特質(1):印刷資料の特徴を考える
4	図書館資料の種類と特質(2):印刷資料の種類
5	図書館資料の種類と特質(3):非印刷資料の種類と特徴
6	電子資料・ネットワーク情報資源の種類と特質
7	人文・社会・自然科学分野の情報資源の特性
8	書店と図書館:出版・書店業界の現状
9	日本の出版流通システム・再販制度:書店と図書館
10	図書館における著作物の使用:著作権法を考える
11	図書館のコレクションをつくる(1):コレクション構築の意義,サイクル
12	図書館のコレクションをつくる(2):収集方針,選書,収集,体制
13	図書館のコレクションをつくる(3):資料の保管,分担収集保存,除籍
14	図書館のコレクションをつくる(4):評価手法
15	まとめ

## 評価

授業中・後の課題（40％），授業への参画・発表（10％），試験（50％）とし，総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回，コメントペーパーを配布する。気づきや学んだことを整理すること。提出した課題は授業中にグループワーク等で活用する。

## 授業外学習

【事前予習】教科書の該当箇所を事前に通読すること。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で提示した推薦図書や参考文献を参照しながら，配布資料（プリント）の確認，ワークシート課題に取り組むこと。「図書館資料」について，自分自身の意見や考え方を整理すること。（各授業に対して60分）

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】高山正也，平野英俊『図書館情報資源概論』樹村房，2012(現代図書館情報学シリーズ，8)

【推薦書】下記以外の図書は授業中に提示する。

- ・安井一徳『図書館は本をどう選ぶか』勁草書房，2006（図書館の現場，5）
- ・三多摩郷土資料研究会『地域資料入門』日本図書館協会，1999（図書館員選書，14）
- ・内野安彦『ちょっとマニアックな図書館コレクション談義』大学教育出版，2015
- ・日本図書館情報学会研究委員会『情報の評価とコレクション形成』勉誠出版，2015

科目名	情報資源組織論		
担当教員名	三澤 勝己		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

図書館に関する科目の1つ。印刷資料・非印刷資料・電子資料及びネットワーク情報資源により構成される図書館情報資源の組織化について、その理論と技術を解説する。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などの角度から解説する。図書館情報資源の種類と組織化の方法、を意識して学修することが望まれる。図書館情報資源の組織化に関する理論と技術を理解することを目標とする。具体的には、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法などについて理解することができるようになる。

#### 内容

この授業は講義を基本とする。それと共に、提出されたレポートで書かれた質問に回答し、各人がパソコンで資料を閲覧することも取り入れながら、学びを深めていく。

1	情報資源組織化の意義と理論
2	書誌コントロールと標準化
3	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 ( 1 )
4	書誌記述法の概説と主要な書誌記述規則 ( 2 )
5	主題分析の意義と考え方
6	主題分析と分類法 ( 1 )
7	主題分析と分類法 ( 2 )
8	主題分析と索引法 ( 1 )
9	主題分析と索引法 ( 2 )
10	書誌情報の作成と流通
11	書誌情報の提供について
12	ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ
13	多様な情報資源の組織化 ( 1 )
14	多様な情報資源の組織化 ( 2 )
15	まとめ

#### 評価

レポート(10%)と筆記試験(80%)と授業への参加度(10%)により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】数回提出を求める授業内容をまとめたレポートは、次の授業でコメントを記載して返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】毎回、次回の授業内容を予告するので、教科書の該当する部分を読み、ノートにメモを記入しておくこと (各授業に対して60分)。

【事後学修】毎回、授業で説明を受けた部分を、教科書と予習で作成していたメモと講義ノートを照らし合わせ、復習ノートを作成すること。(各授業に対して60分)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】榎本裕希子[ほか]編『情報資源組織論』、ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 3、学文社



科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	蟹瀬 智弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

【科目の性格】ディプロマポリシー「1. 全学共通カリキュラムの多面的な履修により、基礎的な学習能力を養い、心身ともに充実し、自立した女性として積極的に専門領域を超えて問題を解決する力を身につける。」に該当する。

【科目の概要】書誌データ作成および分類・件名付与の演習を行うことにより、情報資源組織について実践的な知識と技術を修得する。

図書館員としてのみならず、一般の社会人としても情報資源を活用できる人材となることを目指す。

【学修目標】日本目録規則や日本十進分類法による情報資源の組織技術を修得し、書誌データを作成できるようになる。

#### 内容

【授業の進め方】教科書を簡単に解説した後、おもに教科書の課題を使用して演習を行い、課題について解説する。

○前期 1回 情報資源組織の概要(1章) ()内は教科書の章

2回 目録法(2章 1.-3.)

3回 タイトルと責任表示の記録(2章 4.(1))、4回 版と出版事項の記録(2章 4.(2)-(4))、5回

形態、シリーズの記録(2章 4.(5)-(6))、6回 注記の記録(2章 4.(7))

7回 書誌階層構造(4章)

8回 図書資料の目録復習

9回 継続資料の目録(3章 1)、10回 録音資料の目録(3章 2.(1))、11回 映像資料の目録(3章 2

.(2))、12回 その他の資料の目録(3章 2.(3)-(6))

13回 書誌ユーティリティーにおける目録・検索(5章)、14回 書誌ユーティリティーにおける目録・登録(5章)

15回 記述目録法まとめ

○後期 1回 主題組織法の概説(6章)

2回 日本十進分類法の概要(7章 1)

3回 補助表の使い方(8章 1)

4回 分類規程(7章 2)

5回 総記、哲学、歴史分野の分類(8章 2)、6回 社会科学、自然科学分野の分類(8章 3)、7回 工業、産業

、芸術分野の分類(8章 4)、8回 言語、文学分野の分類(8章 5)

9回 分類演習まとめ

10回 件名と統制語彙(9章 1)、11回 基本件名標目表の使い方(9章 2)

12回 件名作業(9章 3)

13回 件名演習まとめ

14回 ネットワーク情報資源のメタデータ(10章)、索引・抄録作成法(11章)

15回 主題組織法まとめ

#### 評価

【評価】毎回の演習記録(レポート)40%、まとめの回で実施する筆記試験(全4回)60%とし、総合評価60点以

上を合格とする。

【フィードバック】演習で作成した書誌データ等を授業後に回収して確認し、翌週の授業で返却する。

#### 授業外学習

【事前準備】毎回の授業までに、教科書の該当箇所を読んで理解しておくこと（1時間）。前期第2回から第5回と第8回から第11回、後期第3回から第6回と第9回については、授業の中で次回に向けて別途事前課題を出す。

【事後学修】返却された演習記録をもとに、前回の授業内容を復習すること（1時間）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小西和信[ほか]編．情報資源組織演習．改訂版．現代図書館情報学シリーズ．樹村房，2017

【推薦書】蟹瀬智弘．NDCへの招待．樹村房，2015（後期第1回～第9回）

【参考図書】日本目録規則．1987年版改訂3版．日本図書館協会，2006（前期）

日本十進分類法．新訂第9版．日本図書館協会，1995（後期第1回～第9回）

基本件名標目表．第4版．日本図書館協会，1999（後期第10回～第13回）

科目名	情報資源組織演習		
担当教員名	蟹瀬 智弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

【科目の性格】ディプロマポリシー「1. 全学共通カリキュラムの多面的な履修により、基礎的な学習能力を養い、心身ともに充実し、自立した女性として積極的に専門領域を超えて問題を解決する力を身につける。」に該当する。

【科目の概要】書誌データ作成および分類・件名付与の演習を行うことにより、情報資源組織について実践的な知識と技術を修得する。

図書館員としてのみならず、一般の社会人としても情報資源を活用できる人材となることを目指す。

【学修目標】日本目録規則や日本十進分類法による情報資源の組織技術を修得し、書誌データを作成できるようになる。

#### 内容

【授業の進め方】教科書を簡単に解説した後、おもに教科書の課題を使用して演習を行い、課題について解説する。

- 前期 1回 情報資源組織の概要(1章) ()内は教科書の章  
 2回 目録法(2章 1.-3.)  
 3回 タイトルと責任表示の記録(2章 4.(1))、4回 版と出版事項の記録(2章 4.(2)-(4))、5回  
 形態、シリーズの記録(2章 4.(5)-(6))、6回 注記の記録(2章 4.(7))  
 7回 書誌階層構造(4章)  
 8回 図書資料の目録復習  
 9回 継続資料の目録(3章 1)、10回 録音資料の目録(3章 2.(1))、11回 映像資料の目録(3章 2  
 .(2))、12回 その他の資料の目録(3章 2.(3)-(6))  
 13回 書誌ユーティリティーにおける目録・検索(5章)、14回 書誌ユーティリティーにおける目録・登録(5章)  
 15回 記述目録法まとめ
- 後期 1回 主題組織法の概説(6章)  
 2回 日本十進分類法の概要(7章 1)  
 3回 補助表の使い方(8章 1)  
 4回 分類規程(7章 2)  
 5回 総記、哲学、歴史分野の分類(8章 2)、6回 社会科学、自然科学分野の分類(8章 3)、7回 工業、産業  
 、芸術分野の分類(8章 4)、8回 言語、文学分野の分類(8章 5)  
 9回 分類演習まとめ  
 10回 件名と統制語彙(9章 1)、11回 基本件名標目表の使い方(9章 2)  
 12回 件名作業(9章 3)  
 13回 件名演習まとめ  
 14回 ネットワーク情報資源のメタデータ(10章)、索引・抄録作成法(11章)  
 15回 主題組織法まとめ

#### 評価

【評価】毎回の演習記録(レポート)40%、まとめの回で実施する筆記試験(全4回)60%とし、総合評価60点以

上を合格とする。

【フィードバック】演習で作成した書誌データ等を授業後に回収して確認し、翌週の授業で返却する。

#### 授業外学習

【事前準備】毎回の授業までに、教科書の該当箇所を読んで理解しておくこと（1時間）。前期第2回から第5回と第8回から第11回、後期第3回から第6回と第9回については、授業の中で次回に向けて別途事前課題を出す。

【事後学修】返却された演習記録をもとに、前回の授業内容を復習すること（1時間）。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小西和信[ほか]編．情報資源組織演習．改訂版．現代図書館情報学シリーズ．樹村房，2017

【推薦書】蟹瀬智弘．NDCへの招待．樹村房，2015（後期第1回～第9回）

【参考図書】日本目録規則．1987年版改訂3版．日本図書館協会，2006（前期）

日本十進分類法．新訂第9版．日本図書館協会，1995（後期第1回～第9回）

基本件名標目表．第4版．日本図書館協会，1999（後期第10回～第13回）

科目名	図書館基礎特論		
担当教員名	石川 敬史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：人間生活学部学位授与方針2,3に該当する。本科目は図書館司書課程における選択科目である。図書館の未来像、そして図書館を取り巻く「仕事」を受講生とともに考え、個人と組織の視角から図書館を考える。

科目の概要：本科目では、図書館の理念と20年後のありたい姿（ビジョン）を構築するため、図書館の未来を創造する。さらに、図書館司書科目における基礎科目・図書館サービスに関する科目等を幅広く踏まえながら、図書館のビジョンを実現するための戦術（方法）を考え、発表する。そして、図書館を取り巻く「仕事」を受講生とともに考える(外部講師も登壇する)。

学修目標(=到達目標)：本科目は講義形式であるが、一部演習形式で行なう。「図書館概論」等の科目を踏まえ、図書館のあるべき姿や実現するための方法を具体的に考え、発表する。

- ・企業や学校法人等の事例を踏まえ、理念やビジョンの必要性、意義、重要性を理解すること。
- ・環境変化や未来社会（人口、産業、技術等）を踏まえ、図書館の理念やビジョンを構築すること。
- ・ビジョンを実現するための施策を考え、受講生同士で発表すること。
- ・図書館を取り巻く「仕事」を具体的に考え、生涯にわたるキャリア形成を理解すること。

#### 内容

初回の授業に必ず参加すること。 土曜日午後、外部へ行く機会が多いので注意すること！

本科目は、受講生の実習・演習・発表が中心となる。

1	オリエンテーション：図書館の理念・ミッション・ビジョンの事例
2	理念・ミッション・ビジョンとは何か？：必要性・意義を考える
3	図書館のビジョンを考える（1）：過去から未来の図書館を創造する
4	図書館のビジョンを考える（2）：ビジョンを実現する方法を考える
5	図書館の理念・戦略の発表
6	図書館を取り巻く仕事（1）：女性図書館員の仕事とキャリア形成
7	図書館を取り巻く仕事（2）：図書館関連企業の女性職員の仕事とキャリア形成
8	まとめ
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

#### 評価

授業中の課題作成（50%）、授業への参画・発表（10%）、最終レポート課題（40%）とし、総合評価60点以上を

合格とする。

【フィードバック】毎回コメントペーパーを配布する。学んだこと、発見したことなどを整理すること。グループワークによる意見交換を行う。

#### 授業外学習

【事前準備】推薦書等に基づき、図書館の理念とは何か、図書館の未来像について考える。（各授業に対して60分）

【事後学修】グループワーク等を踏まえ、図書館を取り巻く「シゴト」について、継続した生涯にわたるキャリアの意義を考える。（各授業に対して60分）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。授業時に随時資料を配布する。

【推薦書】下記以外は授業中に提示する。

- ・尼川洋子，石川敬史『図書館の現場力を育てる』樹村房，2014
- ・ジェームズ・C・コリンズ『ビジョナリーカンパニー』日経BP，1995
- ・小川徹ほか『公共図書館サービス・運動の歴史2』日本図書館協会，2006

【参考図書】下記以外は授業時に提示する。

- ・『ソフトバンク新30年ビジョン』ソフトバンククリエイティブ，2010

科目名	図書館サービス特論		
担当教員名	高橋 知尚		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

図書館司書課程の選択科目です。司書課程の学修をする中で、これまでの自分の図書館利用を振り返ることも必要です。現在、ほとんどの小中高校に設置されている学校図書館は、最も身近な図書館であると言えるでしょう。地域の図書館とは少し異なる学校図書館の役割を考えていきます。

#### 科目の概要

学校図書館は、児童・生徒や教職員のみを原則的に対象とする図書館であり、学校教育の中で行われる教育活動（授業や学校行事など）を支える役割を担っています。

本科目は、これまで経験してきたそれぞれの学校図書館を振り返り、その現状を共有するところから始まります。そして、学校図書館は無くてはならない施設なのか、学校の教育とどのように関わっていくのか、そこで働く図書館員はどのような役割を果たすのか、様々な事例を通して考えていきたいと思えます。

#### 学修目標（＝到達目標）

学校図書館の必要性を考えるとともに、学校図書館における司書の役割を知ること、そして現在の学校図書館や学校教育が抱える問題点を知り、未来の学校図書館の姿を創造（想像）します。

#### 内容

この授業は、講義を基本とし、時に応じてグループワークやディスカッション、全体での発表などを取り入れながら、学びを深めていく。

1	それぞれの学校図書館像
2	教育と学校図書館
3	学校図書館の運営
4	学校図書館サービスの実際 読書支援
5	学校図書館サービスの実際 学習支援
6	学校図書館の環境整備 配架・展示
7	学校図書館の広報活動・渉外活動
8	理想の学校図書館
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

#### 評価

授業に対する意欲・関心・態度80%・課題（リアクションペーパー等）20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の終了時に本時の振り返り、開始時に前時に関する質疑応答などを行い、学習内容の理解を深める。

#### 授業外学習

【事前学修】 出身小中高校のいずれかの学校図書館の様子や雰囲気などまとめ、1日目に持参する。 おすすめの本や今まで読んで印象に残った本を2冊以上用意する。1冊は1日目に口頭で紹介、もう1冊は2日目にその場で紹介を書く。（各準備には60分程度）【事後学修】授業で紹介された学校図書館、またその他の学校図書館のHPなどを探し、その特徴などをノートにまとめる。（60分程度）

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

【推薦書】『学校図書館サービス論』（青弓社，2018）

【参考図書】『学校図書館基本資料集』（全国学校図書館協議会，2018）



科目名	図書館情報資源特論		
担当教員名	中沢 孝之		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 司書課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	図書館司書		

#### ねらい ( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

図書館を構成する最も重要な要素として資料が挙げられる。今日の図書館では印刷資料のほか、非印刷資料、電子資料、ネットワーク上の情報資料など多様な資料の取り扱いを行い、提供していくことが求められている。また、業務の中では蔵書構成を考え、選書し提供する一連のサイクルとレファレンスでの資料の活用など、重要な位置を占めている。

「図書館情報資源概論」で学んだ内容をさらに深めることを目的とし、図書館で実際に行われる選書、蔵書構成と「図書館の自由」も考えながら資料の多様性について考えていきたい。また、地域にとって重要な郷土資料についても学修していく。

講義だけでなく、グループ討議も取り入れ図書館の蔵書構成と利用者への資料、情報提供の具体的な方法も実践を交えていく。

#### 内容

講義をもとに適宜、課題を投げかけグループで議論を深め学びを深めていく。

1	オリエンテーション 現在の図書館情報資源 -
2	図書館情報資源の種類
3	図書館が扱う図書館情報資源の変化
4	図書館情報資源の活用
5	図書館情報資源の特性
6	図書館情報資源と図書館サービス 選書と「図書館の自由」
7	図書館情報資源と図書館サービス 郷土資料の収集と活用
8	まとめ これからの図書館と図書館情報資源
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

#### 評価

事前課題の提出、授業中の演習の取組、最終レポートの提出で総合的に判断する。総合60点以上で合格とする。事前課題は授業内で紹介することもある(氏名等は明らかにしない)提出された最終レポートは翌週以降にメールにて返却する。

#### 授業外学習

【事前予習】図書館の資料はどのようなものがあるか考えておくこと。

図書館の資料をを収集するために必要なことは何かを調べまとめておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の復習は必須。授業時に議論した事をまとめること（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 特になし(必要に応じ適宜プリント等配付)

【参考図書】 授業でその都度挙げて説明していく。